

ARIBからのお知らせ

第 82 回電波利用懇話会開催のお知らせ 「700/900MHz 帯における携帯電話をめぐる動きについて」

総務省において、700/900MHz 帯における携帯電話用の周波数の再編について検討が行なわれ、昨年 11 月末に、国際的な整合性を確保する等の観点から、700MHz 帯及び 900MHz 帯においてそれぞれ上り下りのペアバンドを設けるため、700/900MHz 帯における周波数の再編を行う基本方針が示されました。

また、この基本方針を踏まえ、現在、情報通信審議会の携帯電話等高度化委員会においては、これらの周波数帯での早期のサービスの開始を実現するため、携帯電話の技術基準の検討が行なわれています。

今回の電波利用懇話会では、下記により 700/900MHz 帯における携帯電話をめぐる動きと今後の展望について、総務省 総合通信基盤局 電波部 移動通信課の中里課長補佐をお招きしてご講演いただきます。

会員の皆様には、ぜひご参加下さいますようお願い申し上げます。

記

- 1 日 時 : 平成 23 年 3 月 25 日 (金) 午後 2 時から 3 時 30 分まで
- 2 場 所 : 社団法人電波産業会 会議室 (日土地ビル 11 階)
東京都千代田区霞が関 1-4-1
- 3 題 名 : 「700/900MHz 帯における携帯電話をめぐる動きについて」
- 4 講 師 : 総務省 総合通信基盤局 電波部 移動通信課 課長補佐 中里 学 様
- 5 対 象 : ARIB 正会員及び賛助会員
- 6 参加者 : 60名程度 (定員になり次第締め切らせていただきます。)
- 7 申込先 : 当会ホームページ (<http://www.arib.or.jp/>) 「講演会等開催案内」まで
- 8 参加費 : 無料
- 9 問合せ先 : 企画国際部 電波利用懇話会事務局 佐藤まで
TEL: 03-5510-8592 MAIL: arib-seminar2010@arib.or.jp

電波の安全性に関する説明会の開催について

当会の電磁環境委員会は、一般の方向けに電波の安全性に関する説明会を総務省の地方総合通信局と共催しています。本説明会は、近年ますます身近に利用されている電波の性質や健康への影響について、一般の方にも分かりやすく説明するものです。

今後の予定を以下に示しますので、関心のある方は、各総合通信局のページをご覧ください。講演内容及び講演者についても、各総合通信局のページをご参照下さい。

No.	開催日時	会場	主催
1	2月24日(木) 13:45～16:45	ホテルプリムローズ大阪 2階 鳳凰の間 大阪府大阪市中央区大手前 3-1-43	近畿総合通信局 電波産業会
2	2月24日(木) 14:00～17:15 (13:30 受付開始)	とちぎプラザ 4階 講習室 401 北海道帯広市西 4 条南 13 丁目 1 番地	北海道総合通信局 電波産業会
3	3月3日(木) 13:00～16:30	アイリス愛知 2階 大会議室「コスモス」 愛知県名古屋市中区丸の内 2-5-10	東海総合通信局 電波産業会
4	3月8日(火) 13:00～16:30 (12:30 受付開始)	日暮里サニーホール ホテルラングウッド 4階 東京都荒川区東日暮里 5-50-5	関東総合通信局 電波産業会
5	3月16日(水) 13:00～15:30 (12:30 受付開始)	サンメッセ鳥栖 大会議室 1～2 佐賀県鳥栖市本鳥栖町 1819	九州総合通信局 電波産業会

ARIBの動き

WINDS 利用実験実施協議会が JGN2plus アワード (ネットワーク・運用技術賞) を受賞

2月7日に、JGN2plus (NICT が推進する新世代ネットワークの研究開発を支えるテストベッドネットワーク) を利用した一般利用プロジェクトを対象に、3年間の研究開発活動において、特に優れた成果を上げたと認められた10プロジェクトが、「JGN2plus アワード」として表彰されました。この中で、当会が事務局を務める WINDS 利用実験実施協議会 (会長：東京工業大学 西原明法教授) が研究テーマ「超高速インターネット衛星 (WINDS) 利用実験」で表彰されました。

本研究テーマは、総務省が募集し、採択された53件の WINDS 利用実験の内、JGN 2 plus を利用する以下の4つの利用実験を実施したものです。

- (1) 国際遠隔教育実験 (東京工業大、北大、チュラロンコン大、フィリピン大、NTC)
高精細映像伝送用ミドルウェア Midfield を用いて、東工大、北大、フィリピン大、チュラロンコン大、NTC の間で、WINDS の衛星マルチキャストと IP マルチキャストをシームレスに接続し、リアルタイム遠隔教育を行う。
- (2) 衛星回線を利用した日本・インドネシア間高速コンピュータクラスタ構築及び e-Learning の共同開発に関する実験 (熊本大、スラバヤ工科大、バンドン工科大)
- (3) Ka バンドマルチビーム衛星によるハイビジョン映像信号の伝送実験 (首都大学東京、徳島大、有人宇宙システム(株)、MIND)
モンゴル健康科学大学 (HSUM) とセキュアな衛星回線により、ハイビジョン映像信号等の各種映像信号の伝送実験を行う。

- (4) DTN(Delay Tolerant Network) 技術の衛星通信環境における評価（九州工業大、NICT）WINDS を利用して下記 2 項目の実験を実施する。
- ・劣通信環境に耐える技術（DTN）の衛星通信環境における転送実験
 - ・有線、無線回線の混在した環境におけるトランスポートプロトコルの性能評価

第 179 回業務委員会を開催

第 179 回業務委員会を開催しましたので、その概要をお知らせします。

- 1 日時 平成 23 年 2 月 16 日(水) 午後 2 時から 3 時 10 分まで
- 2 場所 当会第 2 会議室
- 3 主な議題
 - (1) 第 50 回理事会及び第 31 回通常総会の議案についての説明
 - (2) ETS-VIII 利用実験実施協議会の業務完了についての報告
 - (3) 携帯電話の普及に伴う電波塔の共同設置等に係る要望についての説明

電気通信・放送行政の動き

V-Low マルチメディア放送の制度枠組みについての意見募集 及び参入希望調査の結果の公表

【平成 23 年 2 月 10 日の総務省報道資料から】

総務省では、「V-Low マルチメディア放送の制度枠組み」について、平成 23 年 1 月 7 日（金）から同年 2 月 1 日（火）までの間、意見募集を実施したところ、122 件の意見が提出されましたので公表します。

また、同期間において、V-Low マルチメディア放送に係る制度整備を検討する上での基礎的な調査として、現時点で参入を希望している方の状況について調査を行いました。その結果、133 件の参入希望が提出され、そのうち、受託国内放送への参入希望（出資のみを含む。）が 18 件、委託放送業務への参入希望が 132 件提出されましたので併せて公表します。

- 1 意見募集について
総務省では、携帯端末向けマルチメディア放送のうち、90MHz 以上 108MHz 以下の周波数を使用するもの（以下「V-Low マルチメディア放送」という。）の制度枠組みについて意見募集を実施したところ、122 件の意見が提出されました。
意見提出者は【別紙 1】のとおり、提出意見は【別紙 2】のとおりです。
※ 意見募集の結果については、総務省ウェブサイト(<http://www.soumu.go.jp>)「報道資料」欄及び電子政府の総合窓口(<http://www.e-gov.go.jp>)の「パブリックコメント」欄にも掲載します。
- 2 参入希望調査について
上記意見募集と同期間において、V-Low マルチメディア放送に係る制度整備を検討する上での基礎的な調査として、現時点で参入を希望している方の状況について調査を行ったところ、133 者から参入希望が提出され、そのうち、受託国内放送への参入希望（出資のみを含む。）が 18 者から、委託放送業務への参入希望が 132 者から提出されました。
調査票の提出者は【別紙 3】のとおり、その内容は【別紙 4】のとおりです。

【別紙 2】及び【別紙 4】については、[総務省報道資料](#)をご参照下さい。

品質評価法調査研究会 委員長 中須 英輔
(NHK 放送技術研究所 テレビ方式研究部 部長)



品質評価法調査研究会の委員長を拝命しております、NHKの中須です。

今年7月、テレビはアナログ放送からデジタル放送に完全移行し、放送を取り巻く環境も大きく変わろうとしています。放送のデジタル化により、放送システムや伝送方式、ディスプレイ、受信機などが大きく変わり、放送サービスの品質に対する考え方や、品質評価、放送監視に求められる要求も変化しています。

品質評価法調査研究会は、番組コンテンツの制作、伝送及び受信に係わる画質並びに音質等の品質評価法を調査研究することを目的として活動を行っています。当調査研究会では、デジタル放送時代にふさわしい放送監視、品質評価を目指し、新たな評価技術の調査検討、様々な要望に応える標準動画像の作成などに取り組んでいます。

私は、国内でデジタル放送の検討が本格化した1997年頃からARIBの標準化活動に参画させていただきました。それ以来、デジタル放送システム開発部会 映像符号化方式作業班の副主任、主任、そして高度データ放送方式作業班の映像タスクグループリーダーとして、BS デジタル放送、地上デジタル放送及びワンセグの映像符号化の審議に参加し、放送方式を決める貴重な経験をさせていただきました。その後、品質評価法調査研究会 モニタリング評価法作業班の主任、そして2004年から同調査研究会委員長として放送システムの監視モニタリング技術やデジタル放送の映像・音声品質の評価に関する標準化に関わり、現在に至っています。

日本のデジタル放送の黎明期からテレビの完全デジタル化まで、ARIBにおける標準化に直接携わる大変幸せな経験をさせていただきました。通信やインターネットとの融合や新たな技術革新により、放送は更に進化を続けていくでしょう。皆さまのご理解、ご協力を得ながら、今後とも日本の放送の発展に少しでも貢献できれば幸いです。

編集後記

昨年、2台目のHDDレコーダを購入しましたが、1台目のHDDレコーダ(5年前に購入したものが)故障してしまいました。メーカーに修理依頼したものの、HDDの初期化を承諾しないと修理できないとの連絡があり、「HDDを初期化して録画内容が失われるなら、今さらダビング10に対応していない旧型機を有償修理するのは意味がない。」と考え、修理をやめました。

しかし、2台目のHDDレコーダはリビングのテレビに接続していますが、リビングでは、家族が放送中の番組を視聴することが多く、自由に録画を視聴するのが難しい状態です。

そこで、寝室のテレビもリビングのHDDレコーダもDLNA(Digital Living Network Alliance:LANを介してAV機器のコンテンツを他のAV機器で視聴するためのガイドライン)対応であることを思い出し、設定してみたところ、あっさり、寝室のテレビでリビングにあるHDDレコーダの録画内容を視聴することができました。

ただ、故障したHDDレコーダ自体には何の未練もありませんが、録画していたマイケル・ジャクソンの特集番組がすべて失われてしまったことが残念です。(編集子:PAO)

ARIB

Association of Radio Industries and Businesses

ARIB NEWS
発行所

社団法人 電波産業会

〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-1 日土地ビル11F
TEL 03-5510-8590 FAX 03-3592-1103
<http://www.arib.or.jp> E-mail arib_news@arib.or.jp